

2年生保護者様

平成24年度 佐賀県学習状況調査結果の分析について

小城市立芦刈中学校
校長 小森 義美

平成24年4月17日、18日に中学1・2年生を対象として「佐賀県学習状況調査」を実施しました。内容は2年生は国語・社会・数学・理科・英語の五教科、1年生は国語・社会・数学・理科の四教科および学習・生活に関する調査でした。その結果を分析し、本校生徒の全体的な傾向と今後の指導について検討いたしましたのでお知らせいたします。なお、生徒一人ひとりの学習の状況につきましては、「学習状況シート」を配布しております。また、家庭学習の時間の確保や朝食喫食等に関しては、ご家庭の協力が必要です。基本的な生活習慣の確立が学力に影響を及ぼすとも言われています。ご家庭でもよろしくご指導お願いいたします。

1. 2年生の傾向と今後の指導について

	傾 向	今後の指導について
国語	全体の正答率は、県平均とほぼ同じ程度である。観点別の正答率は、「話す・聞く」、「書く」、「読む」の3観点で県平均を上回り、「言語事項」だけが県平均を下回っている。全体としては「書く」は県平均をやや上回り、それ以外はほぼ県平均並みと言える。	県平均を下回った「言語事項」に関する学習に特に力を入れていきたい。語句・語彙に関わるドリル学習や取り立て指導を行い、楽しく効率的に学習することをめざす。また、漢字の読み書きについては、家庭学習を習慣化させる。読解指導の場面でも、表現のおもしろさや言葉の意味などに留意させていく。
社会	全体での正答率を見ると、ほぼ県の平均と同じであった。「十分達成」「おおむね達成」「要努力」の生徒人数の割合も県の値とほぼ同じであった。観点別では、特に「技能・表現」の観点では県平均を上回っているが、「知識・理解」では、県平均を下回っている。領域別に見ると、「世界の地域構成」「歴史の流れ」「古代までの日本」「中世の日本」のいずれも県の値とほぼ同じである。	これまで授業の中で、地図や資料などを使ったり、読み取ったりする作業的な学習を多く取り入れて来たことが「技能・表現」の結果に出ていると考えられる。一方で、「知識・理解」に対しては、学習した内容の定着が十分でないことがわかる。また、正答率ごとの人数を見ると、90%以上が0人で、30～40%の人数が最も多い。授業で学習した内容の定着に努力を要すると考えられるので、しっかり定着できるよう、家庭での学習、ノートの書き方の指導や復習テストなどに力を入れていきたい。
数学	全体での正答率を見ると、県平均を下回っている。観点別の正答率も、「見方や考え方」「表現・処理」「知識・理解」のすべての観点で県平均を下回っている。領域別にみると、「数と式」「図形」「関数」においては県平均を下回っているが、「資料の活用」の領域は県平均を上回っている。	2年生では、計算力を定着させるために、毎週末に計算プリントを課題としている。今後も根気強く、同様の取り組みを続けていきたい。同時に、理解が十分でない子に対しては補習などを行い、さらにきめ細やかな指導に取り組んでいく必要がある。「見方や考え方」の正解率が低いのは、文章を読み取る力の不足が考えられるため、様々な問題を解く機会を増やしていきたい。
理科	本校の全体の内容に対する正答率は、県正答率を下回っている。教科全体の到達度分布において十分達成の生徒が県平均より下回っており、要努力の生徒が上回っている。内容・領域別では、「身の回りの物質」が十分な理解ができていないようである。	授業内容において、実験観察に対する関心の高い生徒が多い反面、基礎基本的な内容を覚えることやノートにまとめることを苦手とする生徒が多い。そこで、小単元で到達目標を明確に表示し、細かなステップの小テストを取り入れて内容理解を確実にするとともに問題集などの基礎基本の内容についての取り組みを丁寧に行いたい。まずは、人の話を聞く能力を高めるために、授業中の話の聞き方や正しい姿勢で授業に取り組むなどの基本的な学習訓練等も重点的に指導していきたい。
英語	本校の平均は、県平均を大きく上回っている。特に到達度分布においては、「達成している」がかなりオーバーしている。観点別正答率では、表現が県平均をわずかに下回ったものの、理解と言語の2つの観点については、いずれも上回っている。また、内容・領域別正答率では、「聞く」、「書く」、「読む」の全ての領域において県平均を上回るという結果が出ている。表現の観点別正答率のみ若干下回ったが、その他のデータは、今後十分に期待できるものである。	今回の結果から、観点別正答率の「表現」が県より若干下回ったことを鑑み、口頭によるパターンプラクティスを強化し、インプット活動をすることでワークシートの正答率も高まると推測できる。また、これまで以上に、コミュニケーション活動を繰り返すことで、基礎・基本の定着度が高まり、表現の能力が向上すると考えられる。更に、教科書準拠の問題や副教材の問題をすることを増やせば、これまでの結果を維持するだけでなく、次年度の学力調査でもその伸び率を実感することができるかと推測される。今回の調査結果から今後の指導強化するポイントが判明し、それを重点的に指導していく課題が見いだされたと解釈している。

2. 2年生の学習・生活に関する調査結果の特徴的な傾向について（○はよい傾向、△は課題と思われる傾向を表わしています。）

- 学校の授業の復習をしていると答えた生徒が多い。
○ 朝食を毎日食べている生徒の割合は、県の平均よりやや低いものの、昨年同時期よりも大きく改善されている。
- △ 学習に関する調査（目標がある・学習計画を立てる・宿題をしているなど）全体について、だいたいあてはまると答える者は多いが、あてはまると答える者の割合が少ない。